

# 獅王あきる

第31号

発行 あきる野市教育委員会 東京都あきる野市三宮350 電話 042-558-1111 FAX 042-558-1560

## あきる野市の獅子舞

石川博司 (多摩獅子の会)

### 1 東京都の獅子舞概観

獅子舞の分類には、例えば一匹の獅子を1人で演じる「一人立ちの獅子舞」、2人で演じる「二人立ちの獅子舞」などがある。「二人立ち」は、伎楽系のものと大神楽系などのように、一口に「獅子舞」と言っても細かく見るといろいろな種類がある。

市内で「獅子舞」と言えば、三匹獅子舞を思い浮かべる方が多いと思う。それとも屋台囃子で踊る獅子舞かも知れない。

先に挙げた三匹獅子舞や囃子の獅子舞の他にも、乙津地区では、現在も続いている太神楽があり、神楽でも獅子舞が出てくる。

ここでは、三匹獅子舞に限定して話を進める。特記がない限り「獅子舞」とは、三匹獅子の獅子舞を指す。

北多摩地区に17か所で計82か所ある。この他に現在獅子舞をやめた所が、西多摩地区で7か所（市内の1か所を含む）、南多摩地区で5か所、北多摩地区で3か所ある。

いずれにしても、西多摩地域が獅子舞の中心であると言える。現在の西多摩郡の分布は、奥多摩町に12か所、あきる野市に10か所、青梅市と檜原村に各7か所、日の出町と瑞穂町に各1か所である。

#### 獅子舞の構成

獅子舞では、雄獅子二匹と女獅子（各団体により雌獅子、牝獅子など表記が異なる）一匹、花笠（2人・4人・6人）・笛方・唄方で構成される。これが基本的な構成で、場所によって御幣持ち・塩持ち・酒樽持ち・拍子木・金棒・ホラ貝・万灯持ちなどが加わる。

#### 演目の構成

通常、獅子舞は、①イリハ（導入部）、②カカリ（主題）、③ヒキハ（最後の舞）の三部から成るのが基本である。時間の配分で、①を省略して②から始まる場合がある。

#### 獅子舞の唄

獅子舞唄も、演目の内容に従って①端唄（小唄）、②本唄（長唄）、③端唄（小唄）が歌われる。端唄は、笛の演奏を続けて獅子舞唄を歌い、下の句を繰り返す。本唄は、笛を止めて長々と歌い、下の句を繰り返さない。

#### 獅子頭の名称

獅子は、雄獅子と女獅子で構成されるが、場所によって呼び名が異なる。雌獅子はメジシと呼ばれるところが多いが、雄獅子は、2匹が区別されて呼ばれる。雄獅子をオオジシとナカジシ、オオタユウ（オダイ）とコタユウ（コダイ）、ダイガシラとショウガシラなどと呼ぶ。



乙津θ大神楽

#### 獅子舞の分布

東京都には、三匹獅子舞に限っても区部に9か所、西多摩地区に45か所、南多摩地区に11か所、

## 2 市内の獅子舞

前に示したように、市内には10か所で獅子舞を伝承している。すなわち(1)五日市入野、(2)尾崎、(3)上代継、(4)草花、(5)下養沢、(6)瀬戸岡、(7)高尾、(8)星竹、(9)引田、(10)山田である。

以下、それぞれ五十音順に市内の獅子舞について記す。

### (1) 五日市入野の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、道具箱に墨で「元治元年甲子九月造之 武州多摩小宮領西入野北寒寺樽村中 獅子並諸道具入」と書かれており、1864年の年号が記載されている。



五日市入野の獅子舞

五日市入野の獅子舞は、昔は「北寒寺の獅子舞」と呼ばれ、一時期は中絶していたが再興した。

毎年4月29日の琴平神社の祭礼や9月27日から29日の3日間にわたる市内五日市の阿伎留神社祭礼で神興渡御の無事安全と氏子の繁栄を祈願して舞われている。祭り初日の開光院で「三拍子」か「藤掛り」を一庭舞って神社へ向かい、神社で一庭舞う。

演目は、①藤掛り・②三拍子・③花掛り・④鞠掛り・⑤蒲団張り・⑥太刀掛り・⑦榎掛り・⑧女獅子隠し・⑨雷立切りの9種類がある。現行は7庭、⑤蒲団張りと⑨雷立切りの2庭は舞えない。

### (2) 尾崎の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、太鼓の胴の内側に墨書きで「宝暦二年」(1752)の年号の記載があり約270年前までさかのぼることができる。また、棒術は、天然理心流の大西政十の影響による。

尾崎の獅子舞は、昭和34年まで隣にある日の出町

平井地区の春日神社で、9月29日の祭礼に奉納していたが、昭和35年に中絶した。昭和53年に復活してからは、9月の最終日曜日に尾崎観音の境内で舞われ、その後日取りが変更されたが、現在は再び9月の最終日曜日となっている。

演目は、①宮参り・②松山・③笹掛り・④お神楽・⑤花掛り・⑥雌獅子隠し・⑦太刀掛りの7庭がある。「宮参り」は、春日神社の宮参りが行われた名残である。

棒使いの演技は、場取りや巡礼棒、ヨツタリなどの呼名がある。それぞれに違った型が採り入れられている。通常は1組2人から3組6人が組んで演じる。

尾崎観音境内の舞場では、天狗が清めの塩を撒いた後、「九字切り」となる。この役は真剣を執り、刀を鞘から抜いて九字を切る。以前の衣装は、紋付き袴であった。

### (3) 上代継の獅子舞

今からおよそ350年前の寛文年間にはじまったと伝えられている。

上代継の獅子舞の日取りは、毎年9月19日の例祭に奉納されたが、昭和初期に農繁期の関係で9月29日に変更した。その後、現在のように9月最終日曜日に変えている。

演目は、大きく「宮参り」(前庭)と「くずし」(後庭)の2庭がある。「宮参り」は、①打込み・②とうるとーはい・③岡崎・④逢切り・⑤しょうでん・⑥我が国の6キリ(短い演技の単位)からなる。「くずし」は、①打込み・②とうひゃい・③しゃぎり・④逢切り・⑤もみ出し岡崎・⑥打ち抜き・⑦飛びつき岡崎・⑧骨なし・⑨かたは・⑩花掛り(女獅子隠し)・⑪うたはな(歌花鶯、通称「うぐいす」)・⑫我が国の12キリである。

### (4) 小宮神社の獅子舞

獅子舞いの来歴の詳細は不明であるが、最も古い記録は獅子の太鼓の墨書きで「元文三年」(1738)の記載がある。また、棒使いも演じられているが来歴等は不明である。

小宮神社の獅子舞は、雨乞い獅子が始まりだという。9月の秋分の日小宮神社の奉納舞から始まる。二年に一度の氏子回りの年は町内4か所を廻り、最近、夜は神社で獅子舞を披露する。

演目は、16曲ある曲目を4つずつ集めて「一庭」として、現在「一の庭」から「五の庭」までである。



小宮神社の獅子舞

獅子は、大頭が額に剣を立てネジレ角2本、小頭が先細の棒角2本を持ち、女獅子が宝珠をいただく。

棒の演目は、①場取り・②場取りのしまい・③ジュンレイボウ・④腰車・⑤ウラミ・⑥オモテクズシ・⑦ジュンレイクズシ・⑧腰車クズシ・⑨水引・⑩サンカ・⑪ミトリ・⑫バトルヤツ・⑬鶴の一足・⑭返し棒・⑮影・⑯表・⑰お清め・⑱太刀掛りの18種類がある。通常は棒と木刀を使うが、木刀のみを用いるのが「ウラミ」・「ミトリ」、真剣のみを用いるのが「表」・「影」・「太刀掛り」である。

### (5) 下養沢の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、獅子頭が収められている箱に「文化十年」（1813）の年号の記載がある。

昭和51年頃に途絶え、7月に神事だけを行っていたが、平成22年7月に復活した。

演目は、①藤掛り・②帯掛り・③擦れ違い・④太刀掛り・⑤花掛り・⑥鞠掛り・⑦女獅子隠し・⑧竿掛り・⑨三拍子・⑩笹掛り・⑪布団張り・⑫剣掛りの12庭である。現在は、その中の5庭程度を舞う。

### (6) 瀬戸岡の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、草花大行寺の古文書に「明和4年（1767）瀬戸岡村の獅子頭を拵え候」とあり、約250年前までさかのぼることができる。また、棒術は江戸時代末期に尾崎で天然理心流の道場を開いていた大西政十が一部教授したといわれている。

瀬戸岡の獅子舞は、かつて9月16日に行われていたが、昭和48年以降は、9月15日（敬老の日）に

日取りを変え、更に現在は9月第3日曜日に日取りを変えている。

4庭あり1庭の構成は、4種の曲からなる。それぞれの舞の間に棒の演技が入る。

獅子頭は、三匹いずれも黒頭である。大頭は赤・黒・金のネジレ角2本、小頭は棒角2本を持つ。女獅子は、頭上に宝珠をいただく。

棒の演目は、①場取り・②鶴の一足・③順礼・④順礼くずし・⑤腰車・⑥表・⑦うらみ・⑧影・⑨水引・⑩追い太刀などがある。

### (7) 高尾の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、『大悲願寺日記』の天明8年（1788）の項に、「高尾村獅子頭、去る天明四辰（1784）正月廿四大光寺焼亡の節、獅子も焼失仕り候処、今年の夏新に彫る。塗出来、九月四日始めて舞い候間」と記載がある。内容は、天明4年にお寺の火事で焼失したため、獅子頭を天明8年に新しく作り、9月に舞った出来事が書かれている。今から約235年以前から獅子舞が行われていたことが分かる。



高尾の獅子舞

高尾の獅子舞は、毎年9月9日に近い日曜日の秋祭り（豊年祭）に演じられる。昭和20年まで大光寺境内で行っていたが、その後は神社や高尾自治会館前の公園で行うようになった。

現行の演目は、①平舞・②神楽・③花掛り・④雌獅子隠しの4庭である。

獅子頭は竜頭といわれる三匹共に黒塗りで、大頭は六角の角が2本、小頭には先端が宝珠状になった丸角2本がある。角は、共に黒塗りに赤の細かい模様が施されている。

## (8) 星竹の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、小太鼓の胴の中に「天保四年八月」（1833）の年号の記載がある。また、星竹地域に残されている『黒山儀三郎日記』（安政6年から明治41年まで黒山儀三郎が書いた日記）の万延元年（1860）の記事に獅子の記載がある。

獅子舞は、元来9月1日の日取りで、現在は、9月第1土曜日になっている。昭和30年代後半の一時期blankがあり、再開された。



星竹の獅子舞

獅子舞の演目は、  
①庭固め・②藤掛り・③三拍子・④花掛り・⑤竿掛り・⑥すり違い・⑦女獅子隠し・⑧太刀掛り・⑨鞠掛り・⑩ふとん張りの10種がある。

獅子頭は、太夫が先端に2本の赤線が入る黒の2本角、男獅子が黒の2本角を持つ。女獅子は宝珠をいただき、いずれも黒頭の三匹である。

## (9) 引田の獅子舞

今からおよそ320年前、「元禄15年」（1702）の墨書きがある獅子頭が残されている。

獅子舞は、毎年7月16日の夜、真照寺の庭で行わ

れてきたが、明治以後に引田三神社（大宮神社、八雲神社、熊野神社）の各鎮守へ奉納され、祭礼日も変更がみられる。今年から、6月最終の日曜日に変更された。

獅子舞の曲目は、個々に独立した次の13通りがある。①祇園囃子・②廻り狂い・③鹿島切り・④御神楽・⑤一つ返り・⑥二つ返り・⑦屏風返り・⑧逢切り・⑨



引田の獅子舞

撥切り・⑩二つ花掛り（花引）・⑪牝獅子隠し・⑫四つ花・⑬須賀々記である。

獅子頭は、大頭が平角2本、小頭がネジレ角2本を持ち、牝獅子は羽根で隠れてみえないが赤い宝珠をいただく。三匹いずれも黒塗りの頭である。

## (10) 山田の獅子舞

来歴の詳細は不明であるが、雌獅子の玉の内側に墨書きで「文化八年」（1811）の記載がある。また、古い獅子頭2点が残され、これが隣接する引田の獅子頭と同形である。

山田の獅子舞は、山田会館を中心として9月第1日曜日に演じられ、天神社と八幡神社の奉納舞が行われる。現在は、女性の獅子の舞手や笛方がみられる。

演目は、①藤掛り・②三拍子・③女獅子隠し・④花掛り・⑤竿掛り・⑥太刀掛り・⑦雷切（かんだちぎり）の7庭である。この中で⑥と⑦の2庭が絶えた。

獅子頭は、三匹共に黒塗りの頭、大頭が縦に赤と黒の2色に塗る先細の角2本、小頭が赤と黒のネジレ角2本を持ち、女獅子が赤の宝珠をいただく。



山田の獅子舞

## 3 おわりに

以上の様に市内10箇所地域で今も継承されている獅子舞について紙面の都合上、大まかに概観してきた。

個々の獅子舞については、市内の獅子舞を含む『東京三匹獅子舞事典』（2016）に詳細に記しているの、そちらを参考にさせていただきたい。なお、本書は市内の図書館で閲覧できる。

【図書館で閲覧・貸出できる著書】

『多摩地方の獅子舞』（2006）石川博司

『あきる野獅子舞辞典』（2008）石川博司

など他多数の獅子舞に関する著書がある。